

ソングの叩き方解説

《 はじめに 》

世界にはさまざまなジャンルやリズムスタイルの音楽があります。DTX Drums シリーズでは、主流となる音楽スタイルやドラムテクニックの上達に適した 10 曲を厳選しました。ドラムがまったくの初心者の方でも無理なくドラム技術の習得ができるように、シーケンス表を用いて解説していきます。譜面が読める方は、各曲のドラム譜からトライされても構いません。なお、各ジャンルの曲において「Lesson (数字)」と書かれている譜面 (パート譜) は、トレーニングモードにおける「ソングパートゲート」の練習パートに対応しています。詳しくは各 DTX シリーズの取扱説明書をご覧ください。また、DTX402 シリーズ専用 iOS/Android アプリ「DTX402 Touch」では、アプリ上で著者による各曲の演奏お手本動画をご覧いただけます。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)			●				●	
右足 (ベースドラム)	●				●			

本書では、このような表をシーケンス表と呼ぶことにします。

《 シーケンス表の読み方 》

番号

リズムパターンやフィルインの基調としている音符によって、振り分けている番号の数が変わります。

8 分音符フィール: 1 ~ 8 / 16 分音符フィール: 1 ~ 16 / 3 連音符フィール: 1 ~ 12

カウント

4/4 拍子における 1 小節分のカウントの取り方です。赤く記された番号は、4 分音符のタイミング (ダウンビート) です。声に出してカウントすることが大切です。

4 分音符フィールのカウント



8 分音符フィールのカウント



16 分音符フィールのカウント



“&” は「エン」、「e」は「イー」、「a」は「アー」などと発音するのが一般的な練習法です。

どのタイミングで発音するのか、「番号」か「カウント」でとらえます。最初は「番号」で組み立てていき、慣れてきたら「カウント」で練習しましょう。

《 シーケンス表での練習方法 》

1. 番号を 1 から順番に見ていき、使用する楽器が何かを確認し、パターンを組み立てていきます。
叩く箇所に●が印されています。パターンを組み立てる時は、その曲のテンポでなくても構いません。
ゆっくりのテンポから始めましょう。
例：POP1 のパターンの組み立て方 (リハーサルマーク A, 10 ページ)
番号 1：右手 (ハイハット) と右足 (ベースドラム) を同時に叩く
番号 2：右手 (ハイハット) のみを叩く
番号 3：右手 (ハイハット) と左手 (スネア) を同時に叩く
番号 4：右手 (ハイハット) のみを叩く
番号 5～8 は、番号 1～4 と同じフレーズなので、1～4 が連続で叩くことができれば、完成です。
 2. 1. でパターンが組み立てられるようになったら、次はカウントを声に出して、フィールを感じながら演奏します。
 - ・たとえば、8 分音符フィールなら、カウントを基軸として、8 分音符で感じましょう。
 - ・右手のみ (1 ウェイ) → 右手と足 (2 ウェイ) → 両手と足 (3 ウェイ) と徐々に増やしてパターンを組み立てていくことも可能です。
-

INDEX

1	POP1	12	11	POP ROCK	54
2	POP2	18	12	POP SHUFFLE	55
3	ROCK1	22	13	MODN BALLAD	56
4	ROCK2	26	14	POP PUNK	57
5	METAL	30	15	HARD ROCK	58
6	FUNK	34	16	HALF-8BT RCK	59
7	HIP HOP	38	17	POWER ROCK	60
8	EDM	42	18	6/8 BALLAD	61
9	JAZZ	46	19	PROG ROCK	62
10	LATIN	50	20	THRASH METAL ..	63

21	60S FUNK	64	31	JAZZ WALTZ	74
22	70S FUNK	65	32	FUSION	75
23	JAZZ FUNK	66	33	LATIN ROCK	76
24	SLOW BLUES	67	34	AFRO CUBAN	77
25	ROCK'N'ROLL	68	35	SAMBA	78
26	HIP HOP2	69	36	BOSSA	79
27	HIP HOP3	70	37	REGGAE	80
28	EDM2	71			
29	REGGAETON	72			
30	DISCO	73			

基本的なドラムの叩き方

スティックの持ち方

《 スティックを持つ位置 》



- スティックのおよそ 1/3 と 1/4 の中間を持ちます (9 ページ)。1/3 だと短すぎてスティックが軽く感じ、1/4 だと長すぎて重く感じます。
- 厳密に説明すると、スティックには一番弾みやすい「バランスポイント」(一番はずむポイント)があります。そこを探すのが理想なのですが、最初のうちは上記のポジションでよいでしょう。

《 スティックの持ち方 》

ポイント1



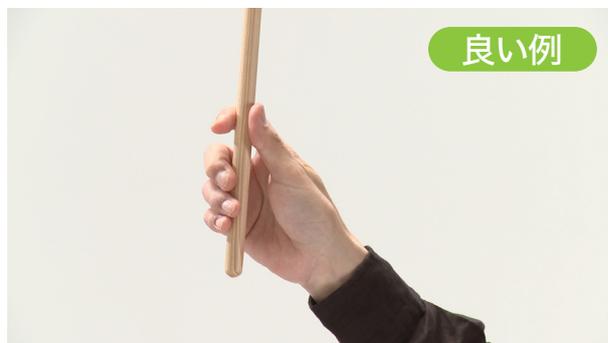
持つ位置が確認できたら、そこを親指のハラと人差し指の第一関節でスティックをしっかりと持ちます。まずはこの二本の指だけでドラムを叩いてみましょう。

ポイント2

残りの三本の指はスティックに軽くそえます。この三本の指を強く握ってしまうと、以下のような問題になります。

- 演奏中に疲れやすい
- スティックがバウンドせず、音がつぶれる
- 手首を使わず、腕でのショットになる

スティックと手の平の間に少し隙間があるくらいが、力むことなく理想的です。余分な力が入っていないことを確認しましょう。



ポイント3

腕に対してスティックが一直線になるように持ちます。小指がスティックから離れてしまう場合は、小指をスティックに添えることを優先し、少し斜めにしてもよいでしょう。ドラムは移動の多い楽器です。「腕全体がスティック」となるように構えることが望ましいです。



良い例



悪い例

スティックの構え方

《フォーム》

「ハの字」になるようにスティックを構えます。



この時、腕とスティックが真っ直ぐになっているか確認しましょう。

そのまま腕を下げて、スティックのチップを打面の中心に降ろします。



《レディーポジション》



- スティックのチップを打面の中心に降ろしたら、スティックを2～3cm 打面から浮かせます。この状態を「レディーポジション」といい、基本の構えとなります。
- ドラムを打面に当てた状態のままの奏法がクセになってしまうと、当てた時の発音(雑音)が演奏前などに必ず入ってしまいます。

TIPS

ここで説明している奏法は「マッチド・グリップ」と呼ばれるものですが、他にも「トラディショナル・グリップ(レギュラー・グリップ)」というものも存在します。トラディショナル・グリップは難易度が高いため、本書ではマッチド・グリップで説明しています。

椅子の座り方

座った時に右足がベースドラムに対してまっすぐになるように、椅子の位置を調節します。体の重心が椅子の中心にくるように、深すぎずリラックスした状態で座ります。

ペダルの踏み方

ペダルの踏み方には、主に以下の二種類があります。

《 ヒールダウン 》



- かかとを下げて、足首を使って踏む奏法です。
- 小さな音量は出しやすいですが、パワフルな音量を維持しにくいです。

《 ヒールアップ 》



- かかとを上げて、足全体で踏む奏法です。
- 小さな音量は出しにくいですが、パワフルな音量を維持しやすいです。

ヒールダウン / ヒールアップ、どちらも長所と短所がありますが、サウンドによって使い分けるのがよいでしょう。

足の置き方

《 キックペダルでの足の置き位置 》

ヒールアップの場合は、つま先をペダルの先端から少し下のあたりに置きます。



ヒールダウンの場合は、つま先の位置をあまり下げなくても良いです。



《 レディーポジション 》



つま先をペダルに置き、かかとを上げると足の重みでペダルが下がり、ビーターが打面につきます。これがキックペダルのレディーポジションとなります。

TIPS

同じヒールアップ奏法の場合でも、ビーターを打面から離れた「オープンサウンド」と呼ばれる奏法もあります。しかし、体のバランスが崩れやすい難易度の高い奏法なので、ここでは扱いません。

シンバルを叩くときのフォーム

《 ハイハット 》



- 写真のようにスティックがクロスするように、ハイハットシンバルを叩く右手が上に、スネアドラムを叩く左手が下になるように構えます。
- 左利きの方は、スティックをクロスせずに、左手でハイハットシンバル、右手でスネアドラムを叩くように構えます。

《 ライドシンバル 》



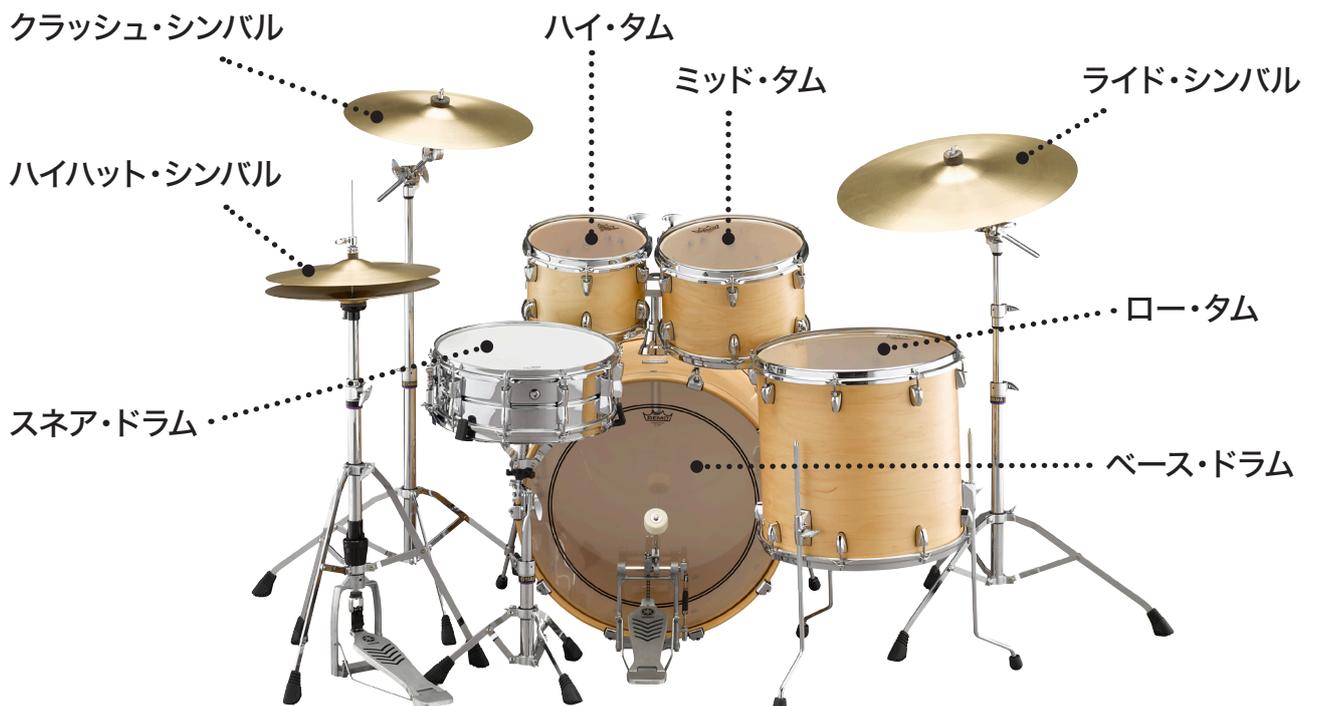
- 右手をライドシンバル、左手をスネアドラムに置きます。
- その際に、スティックと打面の角度が同じになるようにするのがセッティングのポイントです。

《 クラッシュシンバル 》

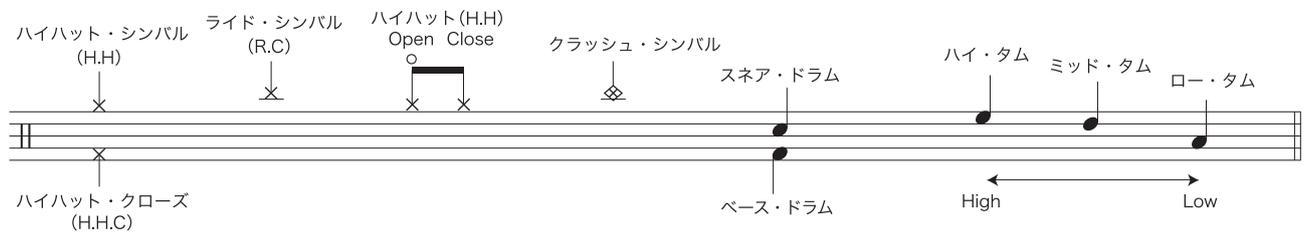
ライドシンバルは基本的にスティックのチップ(9ページ)で演奏することが多いのですが、クラッシュはスティックのショルダーを使ってヒットさせます。したがって、クラッシュシンバルはライドシンバルよりも少し高めにセッティングした方が演奏しやすいでしょう。

ドラムの名称およびノーテーション（記譜法）

《ドラムの名称》



《 ノーテーション (記譜法) 》



スティックの各部名称



8分音符フィールのもっとも基本となるリズムパターンです。ドラムのフレーズを仕上げるときは、まずはその曲の基本パターンから練習していきます。この曲は、8分音符を基本としたリズムパターンなので、8までの数字で分割しています。

《 リズムパターン 》

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)			●				●	
右足 (ベースドラム)	●				●			

リハーサルマーク B

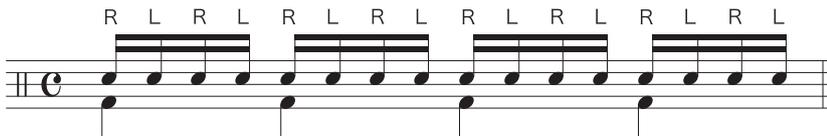
番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)			●				●	
右足 (ベースドラム)	●			●	●			

リハーサルマーク Bのリズムパターンは、4の位置にベースドラムが加わるだけです。

《 フィルイン その1 (オルタネートスティッキング) 》

フィルインとは、「～を埋める」、「～を満たす」の意味で、おもに一定のリズムパターンを繰り返す中で楽曲の繋ぎ目(1～2小節程度の長さ)で即興的な演奏を指します。基本的に奏者のセンスに一任されます。フィルインの役割は、主に伴奏にアクセントをつけることで楽曲を盛り上げることにあり、次の展開に移行する際に用いられることが多いです。

①スティックコントロール (16分音符基本形)



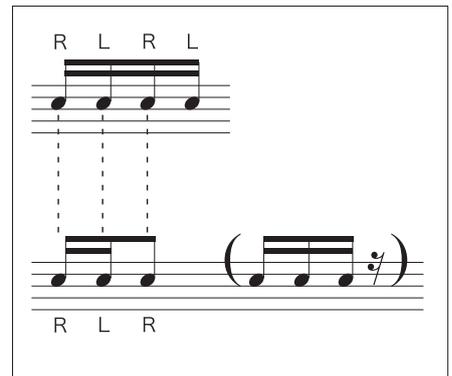
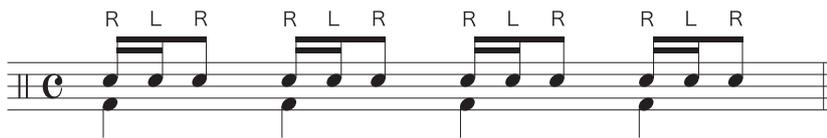
R(右手)、L(左手)の交互の手順を基本とします。

カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	●		●	
左手 (スネア)		●		●

- ・ 両手の振り幅 (スティックを振り上げたときの高さ) が同じになっているか確認しましょう。
- ・ メトロノームに合わせて繰り返し練習しましょう。
- ・ まずは、右手 / 左手のみで練習し、慣れてきたら右足を足し、4分音符でリズムキープしましょう。

ここからは、①のように RLRL の交互の手順を基本として考えていきます。

②スティックコントロール (16分音符バリエーション)

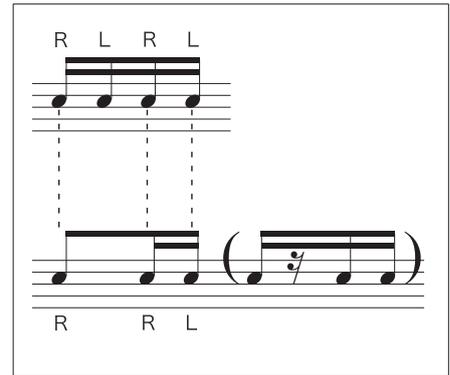
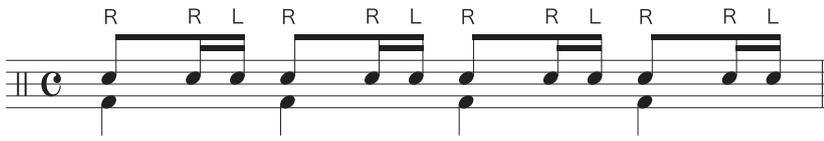


カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	●		●	
左手 (スネア)		●		×

- ・ ①の4打目がありません。
- ・ メトロノームに合わせて、連続してリズムキープできるように練習しましょう。

③スティックコントロール (16分音符バリエーション)

SCORE
01



カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	●		●	
左手 (スネア)		×		●

- ・ ①の 2 打目がありません。
- ・ メトロノームに合わせて、連続してリズムキープできるように練習しましょう。
- ・ このフレーズを連続すると、POP2(16 ページ) のリハーサルマーク A のハイハットのリズムとなります。
- ・ ②→③とつなぎ合わせると、リハーサルマーク A の 4 小節目、3 拍目と 4 拍目のフィルインとなります。
- ・ ③→②とつなぎ合わせると、リハーサルマーク B の 4 小節目、3 拍目と 4 拍目のフィルインとなります。
- ・ 右手の振り幅だけが高くなるように、両手の振り幅が均等になるように意識して練習することがポイントです。

《 フィルイン その2 (コーディネーション) 》

フィルインは、ハンドワーク (両手) のみで演奏するものもあれば、ハンドワーク (両手) とフットワーク (両足) とを組み合わせで演奏するものもあります。両手と両足の組み合わせで作られたフレーズをコーディネーションと呼びます。

リハーサルマーク A 8小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)			●		●		●	●
右足 (ベースドラム)	●	●		●		●		

リハーサルマーク B 8小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)	●		●	●			●	
右足 (ベースドラム)		●			●	●		●

SCORE
02

テンポ: 112
フィール: 8分音符

// **POP 2** //

♩ = 112

R RLR RLR RLR RL R RLR RLR RLR RL R RLR RLR RLR RL

A C.C H.H

R RLR RLR RLR RL R RLR RLR R RLR R RLR RLR RLR LR RL

B RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL

RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL R R RL LR RL LR

《パート譜》

Lesson 1

R RLR RLR RLR RL R RLR RLR RLR RL

Lesson 2

RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL

Lesson 3

R RLR RLR RLR RL R RLR RLR RLR RL R RLR RLR RLR RL

Lesson 4

R RLR RLR RLR RL R RLR RLR R RLR R RLR RLR RLR LR RL

Lesson 5

RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL

Lesson 6

RLRLRLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRLRLRL R R RL LR RL LR

《 リズムパターン 》

POP1 のフィルイン (スティックコントロールの③、14 ページ) を使ったリズムパターンです。

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハット)	●		●		● (スネア)		●		●		●		● (スネア)		●	
左手 (ハイハット)				●				●				●				●
右足 (ベースドラム)	●				●				●				●			

- ・ 番号5と13の右手はスネアに移動します。ベースドラムとタイミングがずれないように気をつけましょう。
- ・ ハイハットからスネアに移動する右手のストロークが斜めからではなく、上からのショットになるよう注意しましょう。

次は、POP1で説明したフィルイン(スティックコントロールの①、13ページ)を使ったリズムパターンです。

リハーサルマーク B

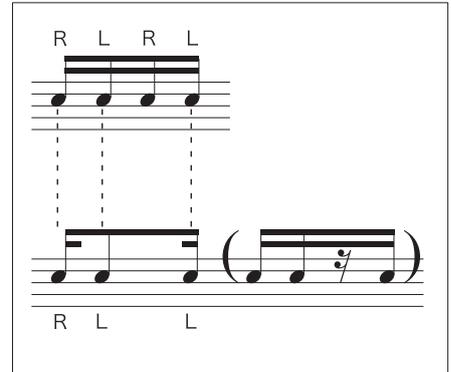
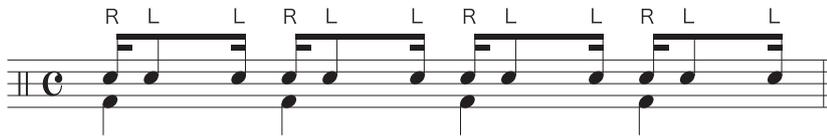
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハット)	●		●		● (スネア)		●		●		●		● (スネア)		●	
左手 (ハイハット)		●		●		●		●		●		●		●		●
右足 (ベースドラム)	●				●				●				●			

リハーサルAと同様に、右手の動きに気をつけましょう。

《 フィルイン 》

リハーサルマークB 8小節目

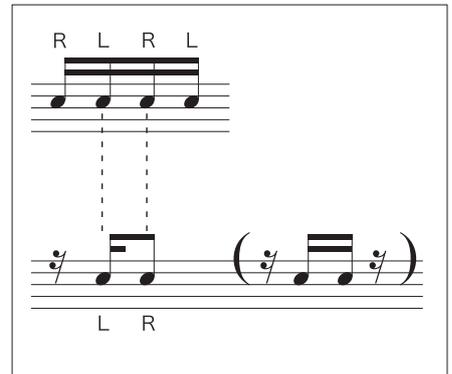
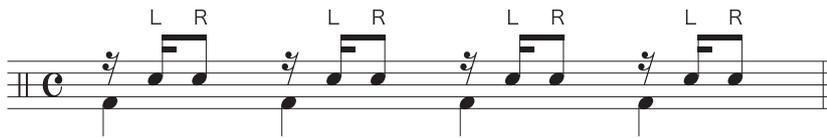
④スティックコントロール (16分音符バリエーション)



カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	●	×	×	×
左手 (スネア)	×	●	×	●

- スティックコントロールの①(13ページ)の3打目がないフレーズです。
- メトロノームに合わせて、連続してリズムキープできるように練習しましょう。

⑤スティックコントロール (16分音符バリエーション)



カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	×	×	●	×
左手 (スネア)	×	●	×	×

- スティックコントロールの①(13ページ)の1打目と4打目がないフレーズです。
- スティックコントロールの②(13ページ)の1つ目がないフレーズと解釈してもよいです。
- ②(13ページ)と⑤(19ページ)を交互に練習すると、理解しやすいです。

SCORE
03

テンポ: 90
フィール: 8分音符

// ROCK 1 //

♩ = 90

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R L R L R L

A C.C. > H.H.

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R L R R R L R L R R R L (L)

B > R.C.

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R L R L R L

《 リズムパターン 》

SCORE
03

ハイハットは 8 分音符刻みのリズムパターンですが、ベースドラムは 16 分音符のフィールです。

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハット)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左手 (スネア)					●								●			
右足 (ベースドラム)	●					●			●						●	

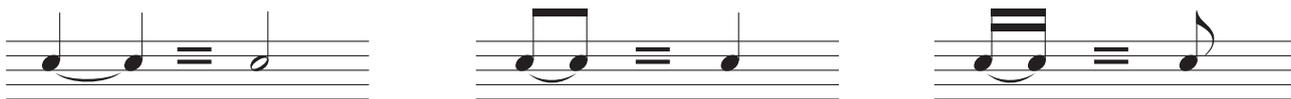
リハーサルマーク A 2小節目 / リハーサルマーク B

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ライド)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)			●				●	
右足 (ベースドラム)	● (●)				●	●		

番号 2 にベースドラムを入れると、リハーサルマーク B のリズムパターンとなります。

《 リズミック・アーティキュレーション 》

リズミック・アーティキュレーション (Rhythmic Articulation) とは、楽曲の単調さを避けるために効果的に変化を加え、意外性を持たせて演奏することです。リハーサルマーク A の 4 小節目、リハーサルマーク B の 8 小節目がそれぞれあたります。ここでは、タイド・リズム (Tied Rhythm) を用いたリズミック・アーティキュレーションを紹介します。タイド・リズムとは、ふたつの同じ高さの音符を結ぶことで、つなげて演奏することです。



リハーサルマーク A 4小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハット)	●		●		● (オープン)		● (オープン)		● (オープン)		● (オープン)		● (オープン)			
左手 (スネア)							●			●			●			●
右足 (ベースドラム)	●				●			●			●			●		
左足 (ハイハット オンフット)							●			●			●			●

- ・ ハイハットオープンとは、左足のフットペダルを踏まないと音が消えません。
- ・ 左足(ハイハット オンフット)は左手(スネア)とのタイミングがずれないように気をつけましょう。

《 フィルイン 》

アクセントフラム リハーサルマークB 8小節目



本来のフラムとは異なり、アクセントフラムは装飾音とメインとの音量は同じです。スティックをアップして時間差で右手から打面にヒットさせます。まずは RL の順で習得したほうが、右足とスネア (左手) のとの組み合わせのアクセントフラムなど応用できるようになります。

SCORE
04

テンポ: 146
フィール: 8分音符

// ROCK 2 //

♩ = 146 (♩ = ♪³)

A C.C

R L R R L R R L R R L R R L R L R L

R L R R L R R L R R L R R L R L R L

B R.C

R L R R L R R L R R L R R L R L R L

R L R R L R R L R R L R R L R L R L

《パート譜》

Lesson 1

♪ = ♪³♪

R L R R L R R L R L R L R L R L R L

Lesson 2

♪ = ♪³♪

R L R L R L R L

Lesson 3

♪ = ♪³♪

R L R L R L R L R L R L R L R L R L

Lesson 4

♪ = ♪³♪

R L R L R L R L R L R L R L R L R L R L R L

Lesson 5

♪ = ♪³♪

R L R L R L R L R L R L R L R L R L R L R L

Lesson 6

♪ = ♪³♪

R L R L R L R L R L R L R L R L R L R L R L

この曲は、シャッフルというリズムパターンです。シャッフルの基本形は、1拍3連音符のうち、真ん中(2番目)の音符を抜いたリズムです。



この曲は、右手が4分音符のシャッフルです。ベースドラムを3連音符のフィールで演奏することがポイントです。

《 リズムパターン 》

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
カウント	1	&	a	2	&	a	3	&	a	4	&	a
右手 (ハイハット)	●			●			●			●		
左手 (スネア)				●						●		(●)
右足 (ベースドラム)	●			●			●			●		

3連音符を基調としたリズムパターンなので、番号は12までです。

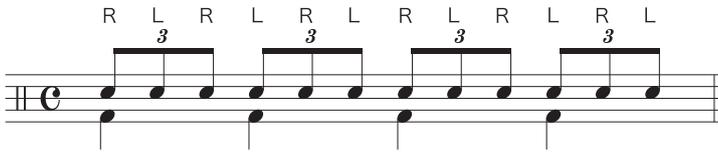
リハーサルマーク B / リハーサルマーク A 7小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
カウント	1	&	a	2	&	a	3	&	a	4	&	a
右手 (ライド)	●			●			●			●		
左手 (スネア)				●						●		
右足 (ベースドラム)	●		(●)				●		●			

番号3と9とのタイミングを、3連音符のフィールで演奏することがポイントです。

《 フィルイン 》

⑥スティックコントロール(3連音符)

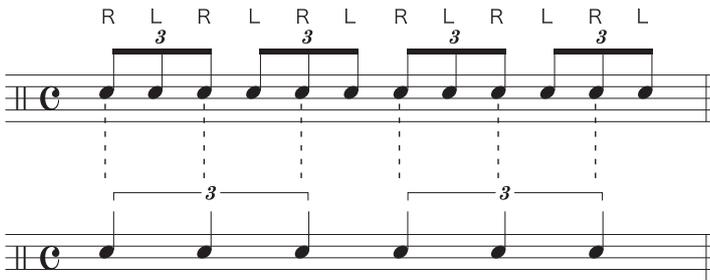


番号	1	2	3	4	5	6
カウント	1	&	a	2	&	a
右手 (スネア)	●		●		●	
左手 (スネア)		●		●		●

- 3連音符(Triplet)のオルタネートスティッキングです。
- 奇数拍(1, 3拍)が右手で、偶数拍(2, 4拍)が左手となります。
- 右足を4分音符でリズムキープしながら練習しましょう。

《 リズミック・アーティキュレーション 》

⑦スティックコントロール(3連音符)



番号	1	2	3	4	5	6
カウント	1	&	a	2	&	a
右手 (スネア)	●		●		●	
左手 (スネア)		●		●		●

- 2拍3連音符のタイミングは、シーケンス表の1, 3, 5番となります。つまり、⑥(27ページ)のスティックコントロールで左手を抜いた形となります。
- 正確なタイミングをつかむまでは、シーケンス表の2, 4, 6番(左手)を空振りしながら練習するとよいでしょう。

SCORE
05

テンポ: 110
フィール: 8分音符

// **METAL** //

♩ = 110

A

B

《パート譜》

Lesson 1

Lesson 2

Lesson 3

Lesson 4

Lesson 5

Lesson 6

この曲は、ダブルストロークオンフットで演奏しましょう。ダブルストロークとは、ワンモーション（一振り）で二打叩くことを意味します。オンフットとは「足を使って」という意味です。この曲では、ベースドラムでの二打連続となりますが、「ダブルキック」、「ダブルアクション」とも呼ばれます。

《 リズムパターン 》

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハットオープン)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左手 (スネア)			●				●				●					●
右足 (ベースドラム)	●				●	●			●				●	●		

両手の 16 分音符のスティックコントロールと同様に、両足でもオルタネートスティッキングで繰り返し練習しましょう。

リハーサルマーク B

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハットオープン)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左手 (スネア)			●				●				●					●
右足 (ベースドラム)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左足 (ベースドラム)		●		●		●		●		●		●		●		●

このシーケンス表は右足からの順番になっていますが、左足からスタートしてもかまいません。

練習手順は、

1. メトロノームに合わせて両足のみで練習する
2. 両足に左手をつけて練習する
3. 両足に右手をつけて練習する
4. 全部で練習する

番号 3, 7, 11, 15 において、3 点（右手、左手、右足）が重なるところで、タイミングがずれないように気をつけましょう。

MEMO



SCORE
06

テンポ: 120
フィール: 8分音符

// **FUNK** //

♩ = 120

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R L R L

A C.C. > H.H.

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R L R L

R R L R R L R L R R R L R R L R L R R L R L R L

B > R.C. H.H.open

R R L R R L R L R R R L R R L R L R R L R L R L RL RL RL

《パート譜》

Lesson 1

R R L R R R L R R R L R R R L R

Lesson 2

R R L R RL R L R R R L R RL R L R

Lesson 3

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R L RL

Lesson 4

R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R R L R R RLRLRL

Lesson 5

R R L R RL R L R R R L R R L R L R R R L R RL R RL L

Lesson 6

R R L R RL R L R R R L R RL R L R R R L R RL R L RL RL RL

《 リズムパターン 》

SCORE
06

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハット)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左手 (スネア)					●								●			
右足 (ベースドラム)	●			●			●				●			●		

- 右手が足につられてタイミングが悪くなりがち理由は以下の2点です。この2点を重点的に練習しましょう。
- ゆっくりのテンポから少しずつ速くしていき、確実に演奏できるようにしましょう。

番号3→4→5の流れ

番号	3	4	5
カウント	&	a	2
右手 (ハイハット)	●		●
左手 (スネア)			●
右足 (ベースドラム)		●	

番号13→14→15の流れ

番号	13	14	15
カウント	4	e	&
右手 (ハイハット)	●		●
左手 (スネア)	●		
右足 (ベースドラム)		●	

ROCK1のリハーサルマークAにおける番号5→6→7、13→14→15と同じ組み合わせです。

リハーサルマーク B

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ライド)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左手 (スネア)					●					●			●			
右足 (ベースドラム)	●			●			●				●			●		

- 番号1～8は、リハーサルマークAと同じで、番号10にスネアが加わります。
- 番号9～11を抜き出し、ゆっくりのテンポで確実に演奏できることを目指しましょう。

《 リズミック・アーティキュレーション 》

この曲では、グループ・オブ・スリー (Group of Three) というリズムック・アーティキュレーションが使われています。リズムック・アーティキュレーションとは、楽曲の中で決められたリズムのことを意味し、演奏者は基本的にそのリズムに合わせます。この曲では、8分音符を3つずつに区切り、以下の譜面のようなリズムック・アーティキュレーションが用いられています。

The image shows a musical score for three staves in common time (C). The top staff features a continuous sequence of eighth-note triplets, each marked with a '3' and a slur. The middle staff contains eighth notes with stems pointing down, also grouped in triplets and marked with a '3'. The bottom staff consists of quarter notes with stems pointing up, also grouped in triplets and marked with a '3'. Vertical dashed lines connect the notes across the staves to show their alignment.

リハーサルマークB 8小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (スネア)	●						●					●				
左手 (スネア)		●						●						●		
右足 (ベースドラム)			●		●				●		●					

《パート譜》

Lesson 1

Musical notation for Lesson 1, featuring a treble clef and common time signature. The piece consists of four measures. Above the staff, fingerings are indicated: R, R L, R, R L, R, R L, R, R L. The notation includes quarter notes, eighth notes, and rests.

Lesson 2

Musical notation for Lesson 2, featuring a treble clef and common time signature. The piece consists of four measures. Above the staff, fingerings are indicated: R, R, R L, R, R, R, R L, R. The notation includes quarter notes, eighth notes, and rests. A double bar line with a '2' above it indicates a second ending.

Lesson 3

Musical notation for Lesson 3, featuring a treble clef and common time signature. The piece consists of four measures. Above the staff, fingerings are indicated: R R R R, R L R R R, R R R R, R L R L R L R. The notation includes quarter notes, eighth notes, and rests. A double bar line with a '2' above it indicates a second ending.

Lesson 4

Musical notation for Lesson 4, featuring a treble clef and common time signature. The piece consists of four measures. Above the staff, fingerings are indicated: R, R, R L, R, R, R, R L, R, R, R, R L, R, R, R, R L R R. The notation includes quarter notes, eighth notes, and rests.

Lesson 5

Musical notation for Lesson 5, featuring a treble clef and common time signature. The piece consists of four measures. Above the staff, fingerings are indicated: R R R R, R L R R R, R R R R, R R R L L L R, R R R R, R L R R R, R R R R, R L R L L. The notation includes quarter notes, eighth notes, and rests.

Lesson 6

Musical notation for Lesson 6, featuring a treble clef and common time signature. The piece consists of four measures. Above the staff, fingerings are indicated: R R R R, R L R R R, R R R R, R R R L L L R, R, L (R), L R R L R L R R. The notation includes quarter notes, eighth notes, and rests.

《 リズムパターン 》

テンポが乱れないように、メトロノームで練習しましょう。

リハーサルマーク A 1小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ライド)	●				●			
左手 (スネア)					●			
右足 (ベースドラム)	●							●

リハーサルマーク A 2小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ライド)	●				●			
左手 (スネア)					●			
右足 (ベースドラム)		●	●					● (●)

番号8の右足は、リハーサルマークAの4小節目です。

リハーサルマークB 1小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)					●			
右足 (ベースドラム)	●	●		●	●			

番号5では、右手/左手/右足を同時に演奏するので、ずれないように注意しましょう。

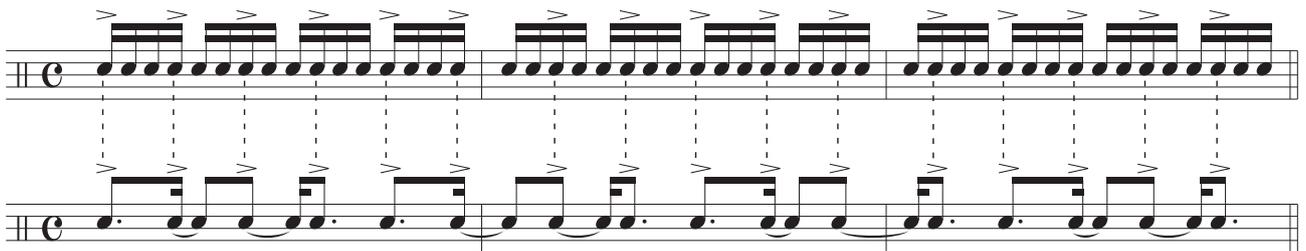
リハーサルマーク B 2小節目

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)	●	●	●	●	●	●	●	●
左手 (スネア)					●	● (タム1)	● (タム2)	
右足 (ベースドラム)	●	●		●	●			

番号6,7では、左手をタム1→タム2と移動させます。

《 フィルイン 》

16分音符を三つずつ区切っていくと、以下の譜面ようになります。曲中のリズムック・アーティクレーションとしてよく用いられるリズムの一種で、16分音符のグループ・オブ・スリー (35 ページ) となります。



番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手	● (スネア)			● (スネア)			● (タム1)			● (タム1)			● (タム2)			
左手	● (ハイハット)				● (ハイハット)				● (スネア)							

《パート譜》

Lesson 1

R R L R R L R R L R R L R

Lesson 2

R R L R R L R R L R R L R R L R R L R L

Lesson 3

R L R R L R R L R R L R L

Lesson 4

L R L L L LR R L L L L LR L L L L L LR L R L L L L RLR

Lesson 5

L R L R L L R L R L L R L L L R L R L R L R L

EDMとは、エレクトロニック・ダンス・ミュージック (Electronic Dance Music) の略です。

SCORE
08

《 リズムパターン 》

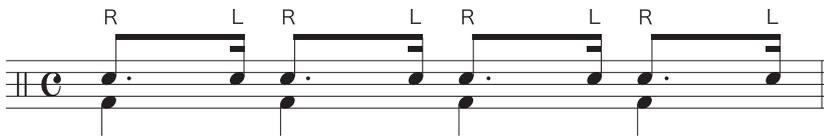
ハイハットは8分音符の裏打ちとなっています。

リハーサルマーク A

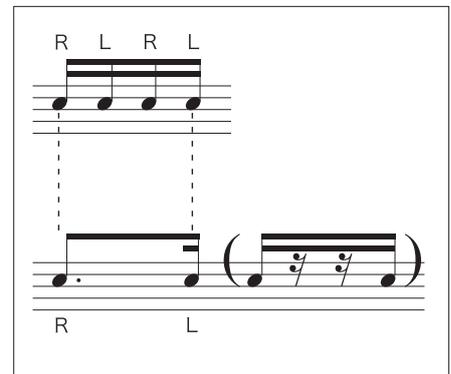
番号	1	2	3	4	5	6	7	8
カウント	1	&	2	&	3	&	4	&
右手 (ハイハット)		●		●		●		●
左手 (スネア)			●				●	
右足 (ベースドラム)	●		●		●		●	

《 リズミック・アーティキュレーション 》

⑧スティックコントロール(16分音符バリエーション)

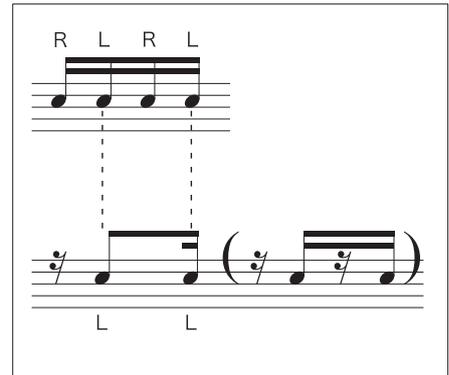
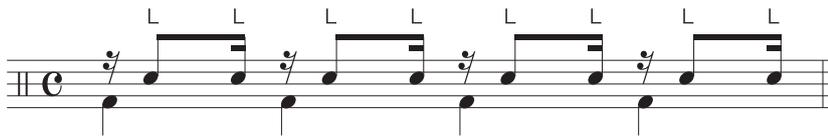


カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	●		×	
左手 (スネア)		×		●



① (13 ページ) の 2 打目と 3 打目とがないフレーズです。

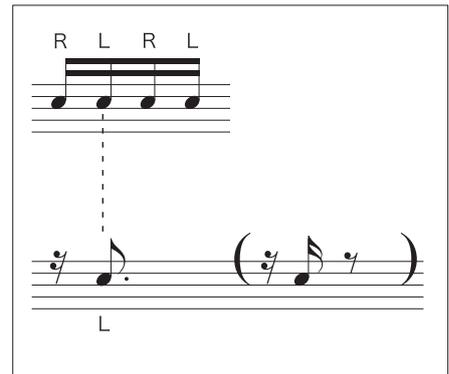
⑨スティックコントロール(16分音符バリエーション)



カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	×		×	
左手 (スネア)		●		●

① (13 ページ) の 1 打目と 3 打目とがないフレーズです。

⑩スティックコントロール(16分音符バリエーション)



カウント	1	e	&	a
右手 (スネア)	×		×	
左手 (スネア)		●		×

① (13 ページ) の 2 打目だけのフレーズです。

SCORE
09

テンポ: 132
フィール: 8分音符

// JAZZ //

♩ = 132 (♩ = ♪³)

A H.H.

C.C.

B R.C.

スウィングの基本パターン 2 種類を使った曲です。シャッフルと似ていますが、以下のような違いがあります。

SCORE
09

The image shows three musical staves illustrating different rhythmic patterns. The top staff shows a basic triplet pattern of eighth notes. The middle staff, labeled 'シャッフル' (Shuffle), shows a triplet pattern with a '7' symbol indicating a shuffle feel. The bottom staff, labeled 'スウィング' (Swing), shows a triplet pattern with a '3' symbol indicating a swing feel. Vertical dashed lines connect the notes across the staves to show their alignment.

《 リズムパターン 》

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
カウント	1	&	a	2	&	a	3	&	a	4	&	a
右手 (ハイハット)	●			●		●	●			●		●
左足 (ハイハットクローズ)				●						●		

このリズムパターンを演奏するポイントは、番号 4 と 10 の左足にあります。ヒールアップ (6 ページ) だと足を上げるタイミングが遅くなりうまくハイハットがオープンになりません。ヒールダウンになっていることを確認してください。

リハーサルマーク B

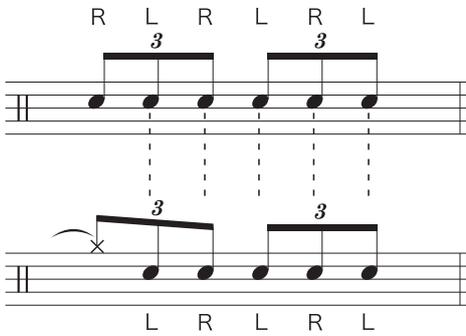
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
カウント	1	&	a	2	&	a	3	&	a	4	&	a
右手 (ライド)	●			●		●	●			●		●
左足 (ハイハットクローズ)				●						●		

番号 4 と 10 のライドシンバルにアクセントをつけましょう。

《 フィルイン 》

スティックコントロールに関しては、3連音符のコントロール⑥(27ページ)を参考にしてください。

難易度は高めとなりますが、3連音符のタイミングをしっかりと取りながら練習してください。



この曲は、ラテンミュージックのなかでもサルサと呼ばれる音楽ジャンルです。各ドラムパッドには、ドラムの音ではなくパーカッションの音が割り当てられています。

《 リズムパターン 》

リハーサルマーク A

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 (ハイハット)	●		●		●		●		●		●		●		●	
左手 (ハイハット)		●		●		●		●		●		●		●		●
右足 (ベースドラム)				●			●					●				●

リハーサルマーク B

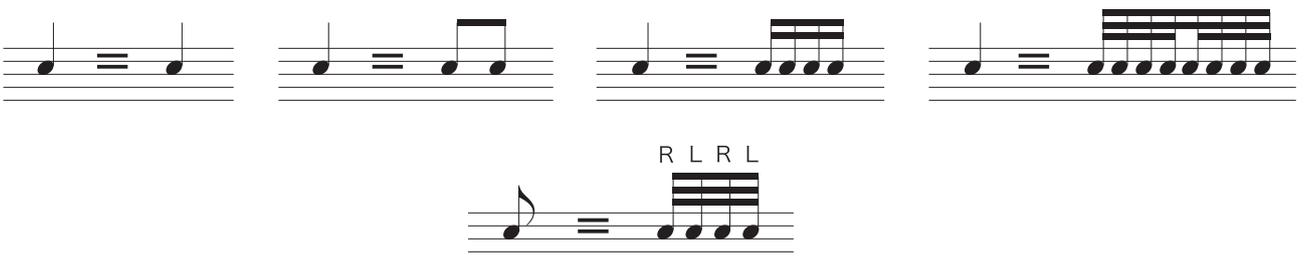
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
右手 ライド(カウベル)	●				●				●				●			
左手 スネア(ハイティンパレス) タム3(ローティンパレス)			● (スネア)					● (タム3)		●	● (スネア)(スネア)					● (タム3)
右足 (ベースドラム)				●			●					●				●

《 リズミック・アーティキュレーション 》

リハーサルマーク B の 8 小節目のタイミングは、スティックコントロール (⑧、⑨) を組み合わせたものと同様となります。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
カウント	1	e	&	a	2	e	&	a	3	e	&	a	4	e	&	a
左手 (クラッシュ)				●		●		●		●		●				
右手 (スネア)	●			●		●		●		●		● (タム3)				

以下の譜面のように、8 分音符ひとつの長さに、32 分音符は 4 打となります。



MEMO

SCORE
11

DTX-PRO
DTX-PROX

// POP ROCK //

♩ = 125

A H.H

C.C

B R.C

// POP SHUFFLE //

♪ = ♪³ ♪
♩ = 126

C.C H.H

A

Section A consists of four staves of drum notation. The first staff is marked with 'C.C' and 'H.H'. It features a consistent pattern of eighth notes with 'x' marks above them, indicating cymbal hits. The second and fourth staves include a double bar line with a slash, indicating a measure rest. The third staff contains a triplet of eighth notes. The fourth staff concludes with a triplet of eighth notes and a final cymbal hit.

B

R.C

Section B consists of four staves of drum notation. The first staff is marked with 'R.C'. It features a consistent pattern of eighth notes with 'x' marks above them, indicating cymbal hits. The second and fourth staves include a double bar line with a slash, indicating a measure rest. The third staff contains several triplet markings over eighth notes. The fourth staff concludes with a triplet of eighth notes and a final cymbal hit.

SCORE
13

DTX-PRO
DTX-PROX

// MODN BALLAD //

♩ = 60

A H.H

B C.C R.C

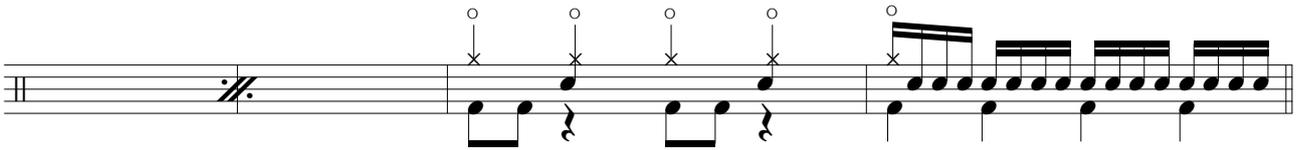
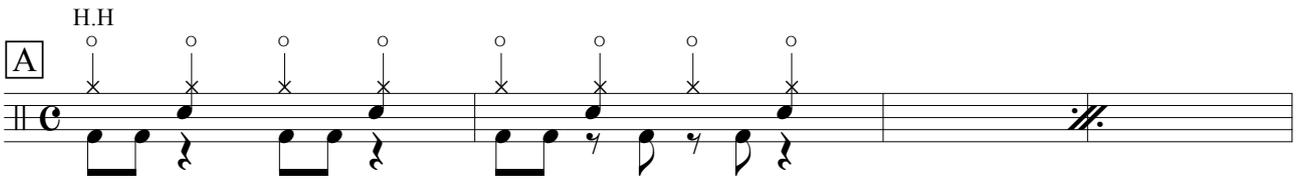
SCORE
14

DTX-PRO
DTX-PROX

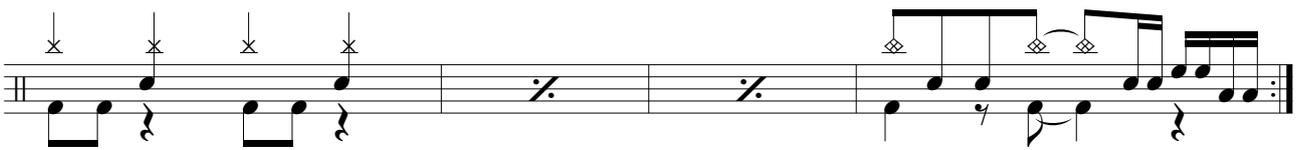
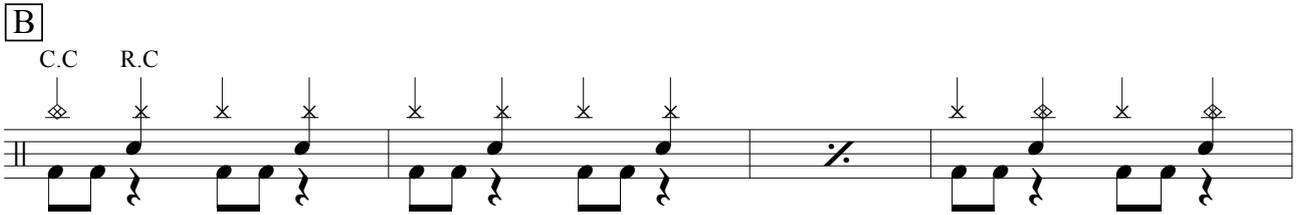
// POP PUNK //

♩ = 192

A H.H



B C.C R.C



SCORE
15

DTX-PRO
DTX-PROX

// HARD ROCK //

♩ = 140

C.C H.H

A

B

SCORE
16

DTX-PRO
DTX-PROX

// HALF-8BT RCK //

♩ = 142

A C.C H.H

B R.Bell

SCORE
17

DTX-PRO
DTX-PROX

POWER ROCK

♩ = 86

C.C H.H

A

Musical notation for section A, consisting of three systems of guitar and drum parts. The guitar part uses a treble clef and a C-clef, with notes marked with 'x' for natural harmonics. The drum part uses a bass clef and a C-clef, with notes marked with '7' for hi-hats. Both parts feature numerous triplet markings. A double bar line with a slash is present in the middle of the first system.

B

Musical notation for section B, consisting of three systems of guitar and drum parts. The guitar part uses a treble clef and a C-clef, with notes marked with 'x' for natural harmonics. The drum part uses a bass clef and a C-clef, with notes marked with '7' for hi-hats. Both parts feature numerous triplet markings.

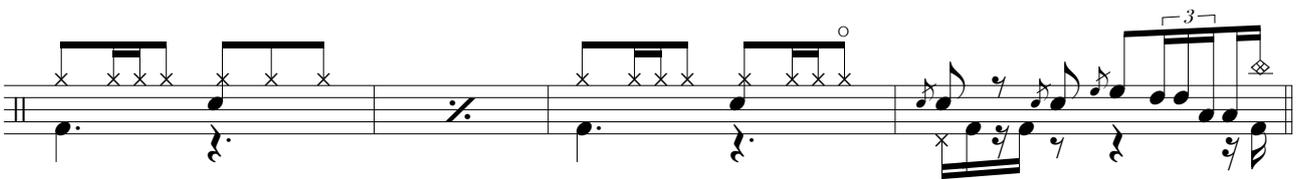
SCORE
18

DTX-PRO
DTX-PROX

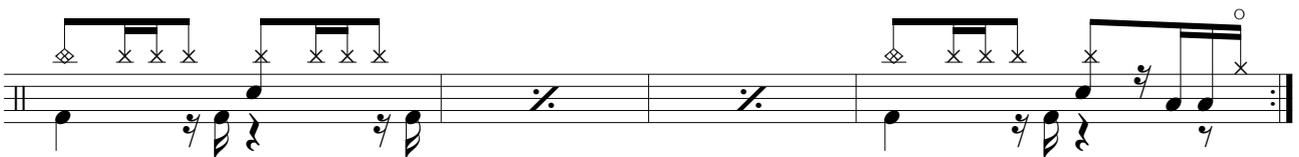
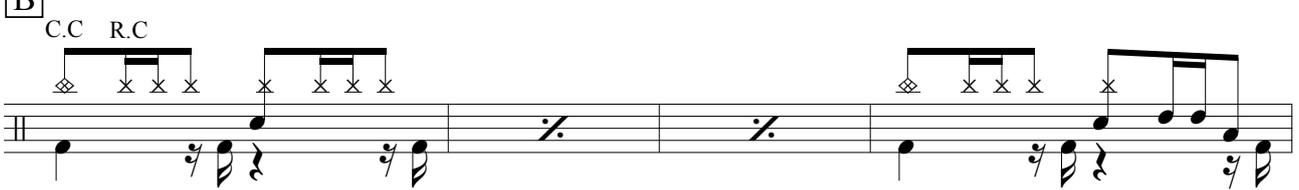
// 6/8 BALLAD //

♩ = 52
♩ = ♩♩

A H.H



B C.C R.C



SCORE
19

DTX-PRO
DTX-PROX

// PROG ROCK //

♩ = 214

A C.C H.H

(3+2)

(2+3)

B R.C

(2+3)

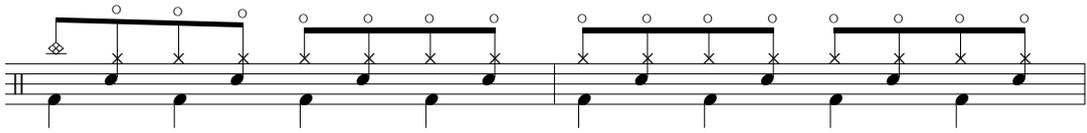
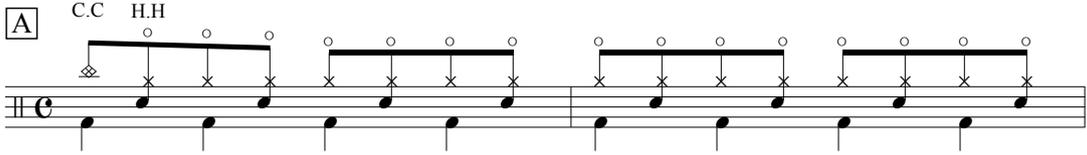
SCORE
20

DTX-PRO
DTX-PROX

// THRASH METAL //

♩ = 185

A C.C H.H



B



SCORE
21

DTX-PRO
DTX-PROX

// 60S FUNK //

♩ = 130

H.H

A

B

SCORE

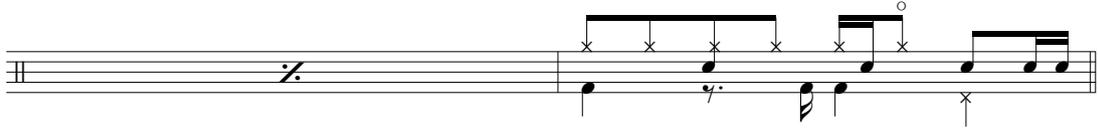
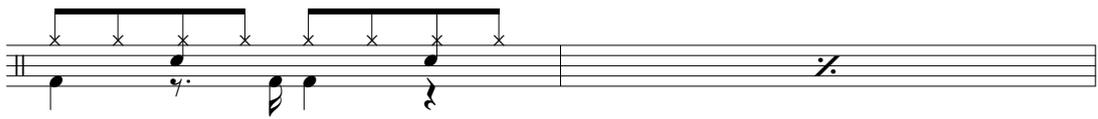
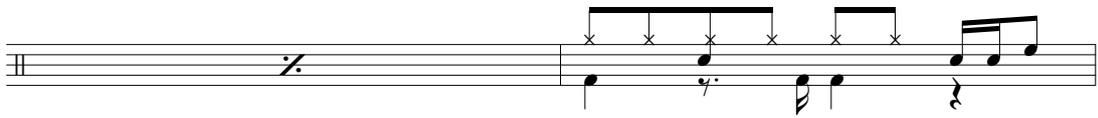
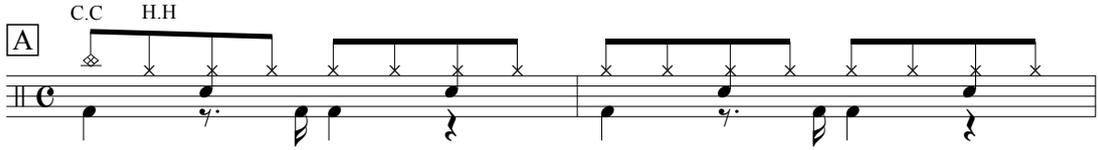
22

DTX-PRO
DTX-PROX

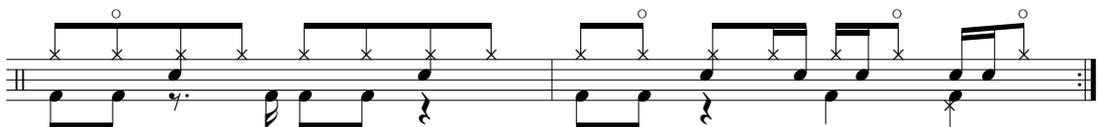
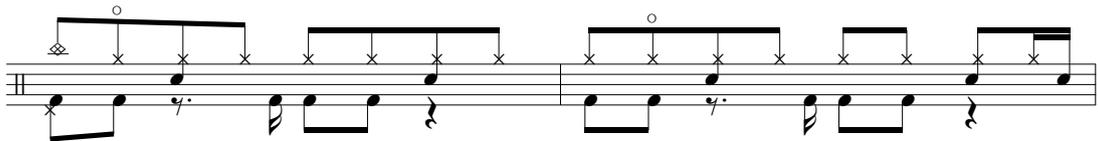
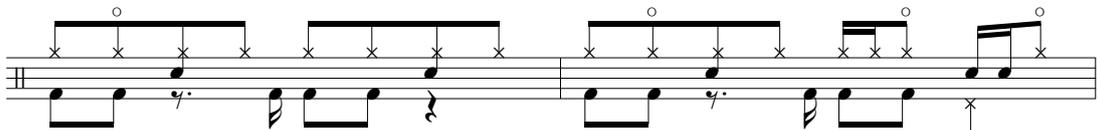
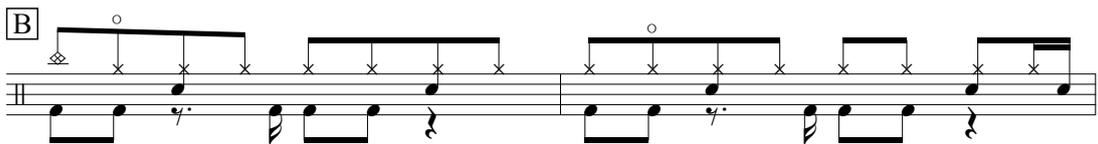
// 70S FUNK //

♩ = 101

A C.C H.H



B



SCORE
23

DTX-PRO
DTX-PROX

// JAZZ FUNK //

♩ = 107

Feeling to swing a little

C.C H.H

A

B

R.C

SCORE
24

DTX-PRO
DTX-PROX

// SLOW BLUES //

♩ = 66

The musical score is written for guitar and drums. It begins with a tempo marking of 66 bpm. The guitar part consists of several systems of music, each with a treble and bass staff. The first system includes a triplet of eighth notes on the treble staff and a triplet of eighth notes on the bass staff. The second system is marked with a box 'A' and features a triplet of eighth notes on the treble staff and a triplet of eighth notes on the bass staff. The third system includes a triplet of eighth notes on the treble staff and a triplet of eighth notes on the bass staff, with a 9-strum (9str.) triplet on the treble staff. The fourth system includes a triplet of eighth notes on the treble staff and a triplet of eighth notes on the bass staff. The fifth system includes a triplet of eighth notes on the treble staff and a triplet of eighth notes on the bass staff. The sixth system is marked with a box 'B' and features a triplet of eighth notes on the treble staff and a triplet of eighth notes on the bass staff. The drum part is indicated by 'C.C.' (Cymbal Crash) and 'H.H.' (Hi-Hat) above the staff, and 'R.C.' (Rim Click) above the staff. The score includes various musical notations such as triplets, slurs, and specific drum techniques like C.C., H.H., R.C., and 9str.

SCORE
25

DTX-PRO
DTX-PROX

// ROCK'N'ROLL //

♩ = 160

C.C R.C

A

B

H.H

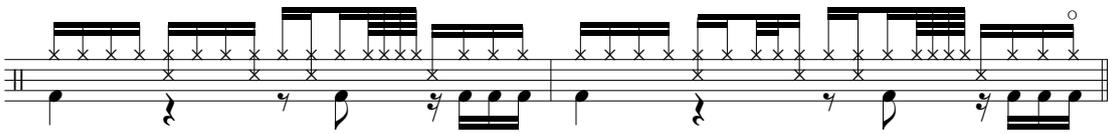
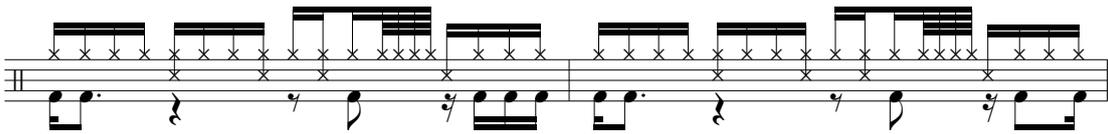
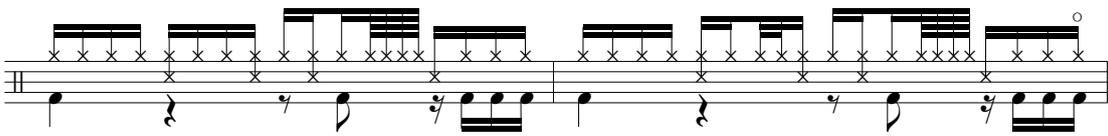
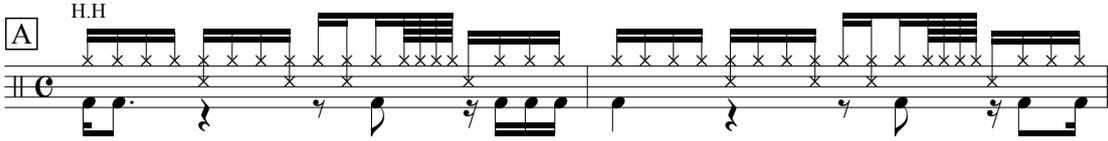
SCORE
26

DTX-PRO
DTX-PROX

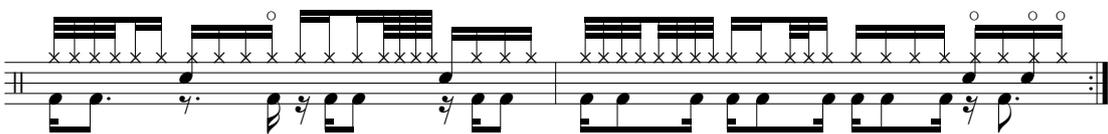
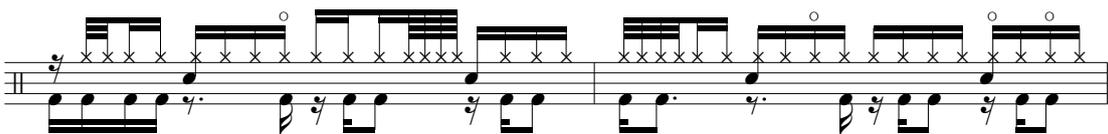
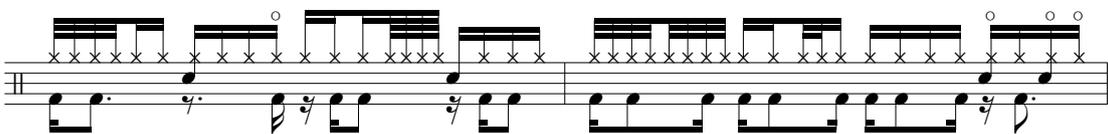
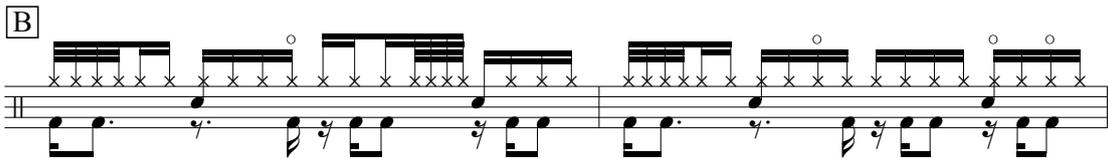
// HIP HOP2 //

♩ = 67

A H.H.



B



SCORE
27

DTX-PRO
DTX-PROX

// HIP HOP3 //

♩ = 88
♩-♩

A H.H

B

SCORE
28

DTX-PRO
DTX-PROX

// EDM2 //

♩ = 102

A H.H

B

SCORE
29

DTX-PRO
DTX-PROX

// REGGAETON //

♩ = 100
H.H

A

B

SCORE
30

DTX-PRO
DTX-PROX

// DISCO //

♩ = 120

C.C H.H

A

B

SCORE
31

DTX-PRO
DTX-PROX

// JAZZ WALTZ //

♩ = 165

♪ = ♩³

A R.C

♪ = ♩ Even Feel

C.C

B (Only Even)

(Only Even)

SCORE
32

DTX-PRO
DTX-PROX

// FUSION //

♩ = 132

A C.C 3 RC

B H.H

// LATIN ROCK //

♩ = 130

A H.H

B C.C R.C Bell

// AFRO CUBAN //

♩ = 200

A H.H

B Bell

SCORE
35

DTX-PRO
DTX-PROX

// SAMBA //

♩ = 120

A C.C R.C H.H

B

SCORE
36

DTX-PRO
DTX-PROX

// BOSSA //

♩ = 145

A H.H

R.C

B

SCORE
37

DTX-PRO
DTX-PROX

// REGGAE //

♩ = 97

A H.H

B

著者プロフィール



永田 敬一

Keiichi Nagata

1960年横浜生まれ。

バディー・リッチに憧れ10歳からドラムを始め、金子安延氏に師事。

19歳でThe SQUARE に加入しプロとしての活動を始める。

その後は来生たかお、上田政樹、マリーン、サリナ・ジョーンズ（日本公演）等多数のアーティストサポートを務める。

（財）ヤマハ音楽振興会では指導スタッフとして講師育成やテキスト制作を担当する。

日本のみならずアメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、フランス、メキシコ、オーストラリア、ドバイなど海外18ヶ国で現地キーティーチャー及び講師の育成、テキスト制作、海外教室の立ち上げに尽力。

ドラム講師としても、ミュージックアベニュー新宿リフラ・プラス、ミュージックアベニュー千葉、藤沢、ヤマノミュージックサロン川口などで後進の指導をして音楽普及に貢献している。

